



知事が行く!
突撃取材! Part2
～三重のひと～

第6回

～義足はかっこいい!～

走りたい気持ちが人生を変える!



インタビュー詳細版

(聞き手)

三重県知事 鈴木 英敬

(お話いただいた方)

大和鉄脚走行会

選手 まえがわ かえで 前川 楓さん (短大生)

監督 かとう ひろあき 加藤 弘明さん (医師)

コーチ ほった たかひろ 堀田 貴弘さん (理学療法士)

コーチ はしば よしひろ 橋場 義浩さん (義肢装具士)



はしば よしひろ 橋場 義浩さん かとう ひろあき 加藤 弘明さん
ほった たかひろ 堀田 貴弘さん まえがわ かえで 前川 楓さん

前川楓選手、リオ2016パラリンピックへ出場決定、おめでとうございます。出場決定前の前川さんの貴重なインタビューをお楽しみください。

知事：前川さんが大和鉄脚走行会と出会って3年。この会は前川さんにとって、どのような存在ですか。

前川：もうひとつの家のような場所です。先生たちとの距離がすごく近くて、母に相談できないことも先生になら相談できます。

知事：たとえば、どんなことですか。

前川：私は試合で負けた時、すごく落ち込んじゃうタイプで、母にはそういうところを見せたくないんです。そういう時は先生を頼って相談すると、しっかり話を聞いてくれるので、すごく助かります。

知事：もうひとつの家、いいですね。前川さんは練習を積み重ねながら、理学療法士をめざして勉強をされていますが、アスリートというよりも、一人の人間として将来の夢は何ですか。

前川：やっぱり陸上と勉強を両立することが一番の目標です。大変ですが、理学療法士になると決めたので、しっかり勉強も頑張っ、3年制の学校なので3



年でしっかり卒業して理学療法士になり、東京パラリンピックにも出たいというのが夢です。

知事：理学療法士になろうと思ったのは、なぜですか。

前川：私は、事故に遭うまで理学療法士という仕事を知りませんでした。でも、事故で入院した私の心の声をしっかりと聞いてくれたのが理学療法士の先生でした。お医者さんよりも一緒に過ごす時間が長くて、「こういうこともできるよ」って、何も知らなかった私に、いっぱい教えてくれました。私も、こうやって患者さんに勇気を与える仕事をしてみたいと思っています。理学療法士は身体のこと勉強するので、走りにも生かすことができますし。

知事：なるほどね。これは理学療法士
みょうり
冥利につける話ですね。それでは監督の加藤さんにお伺いします。平成24年に加藤さんが仲間数人と結成された大和鉄脚走行会の今後の展望について聞かせてください。



大和鉄脚走行会の皆さん

加藤：今年は楓ちゃんが、リオパラリンピックに選手として選考される可能性があります。リオに行くことになっても、ならなくても、全力でサポートしたいと考えています。

会としては、これまで月1回、コツコツと活動を続けてきたことで、「桑名に行けば活動に参加できる」という安心感のある場となり、徐々に皆さんに集まっていただいています。引き続き、義足を使っている人のやりたいことを、一つひとつお付き合いしてサポートし、この輪を広げていきたいと考えています。もし、足をなくすようなことがあっても三重県の大和鉄脚走行会まで行けば走れるし、やりたいことができるようになる。そういう会に発展していきたいと思っています。

知事：メンバーは桑名だけじゃなく県内各地からも来られているんですか。

加藤：県内は桑名から尾鷲まで、今日は滋賀県と京都府からも来てもらっています。

知事：ありがとうございます。次はコーチの堀田さんと橋場さんにお伺いします。堀田さんは理学療法士、橋場さんは義肢装具士として、仕事の枠を超えて障がいのある方々を支援されていますが、活動にかける思いを、それぞれお聞かせください。

堀田：はい、仕事の枠を超えています。会の活動では、職場では聞けないさまざまな方の声が聞けます。実生活の中での困りごとなど、こういう場でしか聞けない声を職場に



持ち帰ってリハビリのプログラムに取り入れたりしています。おかげで「こういうところも気遣ってくれるんですね」と患者さんからも言ってもらえます。フィールドが広がったような感じで、仕事がしやすくなりました。今後も、この活動を通して、たくさんの方を元気にしていきたいと思っています。



知事：ありがとうございます。橋場さんはどうですか。

橋場：堀田先生と同じように、私も日常から患者さんと接する機会が多いんですが、患者さんは今までできていたことができなくなったことに悩まれています。体力が低下したり、走ることが難しくなったり。そこで私たちが精神的なサポートを行い、こういう場で走ることができることを伝える。私は会の活動だけでなく会社でもこういった活動をしています。若い方だけでなく、昔は走っていたのにという50代60代の方が参加されて、「風を切って走るのが楽しい」と言われることがすごく嬉しいです。その姿を見て、私たちが励まされることもあります。これからは頑張っ、皆さんをサポートしていきたいですね。



知事：それでは最後に前川さんに、アスリートとしての目標と、それに向けた意気込みを聞かせてください。

前川：今回のリオパラリンピックに出場できれば、メダルを取りたいと思います。

知事：よしっ、いいですね。

前川：パラリンピックに向けて半年もないので、勉強と両立しながら頑張りたいと思います。

知事：出場できるかどうかは、7月上旬に決まるんですね。日本からは何人が出場できるんですか。

前川：国際パラリンピック委員会（IPC）から、6月下旬に日本の出場選手の枠の発表がありますが、私は推薦順位で10位なので、枠が10人以上だと出場できます。

知事：陸上競技にも、さまざまな種目がありますが、全種目で10人の枠ですか。

加藤：はい、車椅子の競技や投てきなど、女子の陸上競技全種目から10人程度が選ばれるのではないかと考えています。実際、選ばれるかは何とも言えません。

知事：微妙なところなんですね。ドキドキやね。もし、選考に漏れても次の東京パラリンピックもあるし、まだまだ早くなる可能性を秘めているでしょう。これから活躍のフィ



ールドも広がっていきますよね。僕は、ぜひリオに行ってほしいと思います。前川さん、頑張ってください。

前川：はい、頑張ります。

知事：ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13

☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032

E-mail koho@pref.mie.jp